

## 福井支部ニュース

2025年度 第2号

日本科学者会議福井支部

連絡先：山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

### 今号の内容

- ◆報告 2025年度 JSA 福井支部第2回幹事会の概要 (山根 清志)
- ◆訃報 山本富士夫氏ご逝去 (福井支部代表幹事, 全国代表幹事, 他)
- ◆日本学術会議を「特殊法人」化する法律の成立にあたって(署名事務局)
- ◆「小林美希講演会を成功させよう」実行委員会の取組み (森 透)
- ◆土竜時評 大阪万博下請け倒産とトランプの MAGA (土竜 百聞)

### 【報告】2025年度 JSA 福井支部第2回幹事会の概要

2025年7月7日(月)の夕刻、JSA 福井支部の第2回幹事会がオンライン方式で開催された。予定のほぼ18時から、山本雅彦事務局長の司会により予め知らされていた議題(案)に沿って議事はすすめられた。

#### 1、山本富士夫福井支部代表幹事の入院・療養に伴う役員人事について

##### (1) 福井支部代表幹事について

会を代表する新しい支部代表幹事として森透幹事を選任した。

##### (2) 日本学術会議中部地区科学者懇談会の福井県幹事と、JSA 全国幹事について

- ・日本学術会議中部地区科学者懇談会幹事は、これまで山本富士夫氏、永井二郎氏の両名であった。後任について小倉久和幹事が永井会員に相談する。
- ・JSA 全国幹事については、新たに森透氏を推薦することとなった。

#### 2、能登研と北陸シンポについて

##### (1) 能登研について

- ・福井支部の協賛はすでに決まっているが、小野一幹事(能登研代表)の提案を具現化した実行案でのピラを早急に作成し、それでもって参加希望者を募る必要が確認された。

##### (2) 北陸地区シンポ

- ・今年は主体となってとり組むのが富山支部であるのが決まっている外、あとの詳細については未定であることを確認。

#### 3、第40回原子力発電問題全国シンポジウム 2025 京都について

- ・今年の全国原発シンポは、8月24日(日)に京都で開催することが決まっている(主催：JSA 原問研、共催：JSA 京都支部)。

場所：龍谷大学深草キャンパス

時間：10:00～(報告者多数の場合は10:00～16:00まで延長)

#### 4、日本科学者会議第56回定期大会についてでは、1日目出席の代議員森透幹事と2日目出席の代議員山根清志幹事とが、それぞれ定期大会に出席しての感想を述べた。

#### 5、JSA 福井支部第55回定期総会については、支部ニュースの報告記事にある以上には特に発言なし。また、畑明郎氏の記念講演に関する記事は、山本富士夫氏が執筆を取りやめたとの旨の報告があった

#### 6、例会について…積み残しの例会の具体化 (今回も、時間切れで持越。)

#### 7、『福井の科学者』については、高木秀男担当幹事から、次号(12月号)発行に向けて、予定される原稿執筆者に関する紹介がなされた。

#### 8、支部ニュースについては、小倉久和担当幹事から、原稿がないので、本日の幹事会の概要記事の外に原稿を、との訴えに、森透幹事から講演会の呼びかけ記事を書きたいと提案があった(編集時註：本号3ページ目)。

#### 9、会員拡大と会計については、伊藤勇担当幹事から、残高報告、後期会費納入の件、毎回5部送られてくる『日本の科学者』宣伝紙の利用に関する話があった。

その他は、特には無く、山本雅彦事務局長の閉会挨拶後20時20分過ぎに本幹事会は終了した。出席した幹事は計8名であった。

(山根清志)

## [訃報] 支部代表幹事 山本富士夫氏ご逝去

JSA 福井支部事務局長 山本雅彦からの訃報メール -----

JSA 福井支部会員のみな様  
たいへん悲しいお知らせです。

7月11日の朝、当支部の山本富士夫代表幹事（福井大学名誉教授）がご逝去されました。

これまでの故人の、数々の功績を讃えるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

山本富士夫先生は、先月、胃ガンにより胃穿孔となり、激しい腹痛、吐き気、発熱などに襲われ受診。息子さんが住む東京に、ご家族ともども転居し、息子さんが務める医科大学病院に緊急入院されておられました。

福井支部事務局長 山本雅彦

大村芳昭氏（中央学院大学 学長）からの弔辞メール-----

皆様

とても驚きましたし、大変残念です。

千葉県在住在勤でありながら、山本富士夫先生とのご縁で日本科学者会議の福井支部とのご縁をいただきましたし、また、AALA とのご縁もいただき、コロナ禍直前の時期に貴重なロシア訪問の経験をさせていただきました。勤務先の内部事情で専門外の国際法の授業を担当しておりますが、これらのご縁が大きくプラスに働いていることは間違いありません。山本富士夫先生のお人柄に救われたことも少なくありませんし、あの穏やかで、でも情熱的な姿勢には見習うべきところが多かったと思います。

今は心よりご冥福をお祈り申し上げます。

中央学院大学 大村芳昭

## [報告] 日本学術会議を「特殊法人」化する法律の成立にあたって

日本学術会議「法人化」反対署名 事務局 2025/06/26

### 日本学術会議の「特殊法人」化に反対する署名にご賛同をいただいたみなさま

本署名のよびかけ団体は6月24日、声明「日本学術会議『特殊法人』化する法律の制定にあたって」を発表しました。

この声明の発出をもって、この署名の取り組みを終了することにいたします。みなさまには署名へのご協力のほか、法案の廃案を求める運動にもご協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

なお、なお私たちが起こした運動は「ネオ日本学術会議」を社会的な監視の下におくうえで重要な役割を担うものと自覚し、今後も活動に邁進するつもりです。

今後も機会がございましたらみなさまのご協力を賜りたく存じます。

ありがとうございました。

＜＜声明文のページは、下記のURLで（下線部にカーソルを置きコントロールキーを押しながらエンターキーを押すと声明文のページへ）＞＞

<https://www.change.org/p/日本学術会議の-特殊法人-化に反対する署名にご協力を/u/>（以下URLの文字列が長いので略）

### 支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

- ◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論
  - ◆時事評論・批評、意見・見解、訴え、広報など
  - ◆活動・経験報告、事例紹介、行事案内、会員への案内・お知らせ
- その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、何でも支部ニュース担当者までメールでお送り下さい。 yamane@f-edu.u-fukui.ac.jp  
ogura@u-fukui.ac.jp

## [報告]「小林美希講演会を成功させよう」実行委員会の取組み

ジャーナリスト・小林美希さんが、月刊誌『地平』に6回の連載を行い、茨城県知事の大井川県政の根本的な批判を展開した。私は福井からつくばに転居してもうすぐ3年になる。『地平』という月刊誌は初めて知ったが、もうすぐ創刊1年となる。内容的には、社会の様々な矛盾に切り込む内容豊かな雑誌である。小林美希さんは2025年1月から6月までの6回の連載「ルポ・イバラキ」を書かれた。タイトルは、第1回 民主主義が消えていく／第2回 地元政財界の強固なつながり／第3回 メディアのチェック機能はどこへ？／第4回 生徒の生命を脅かす“教育改革”／第5回 生徒を苦しめる超・競争教育／第6回 イバラキが変われば日本が変わる、の6回である。小林美希というお名前は、福井では岩波新書の『ルポ保育崩壊』『ルポ看護の質』等で知っていて、優れたジャーナリストという印象であった。今回の6回の連載を読み、非常に重要で鋭い指摘をされ保守王国茨城県を変えるべく主張されていることが分かり、小林美希さんを是非つくばにお呼びして講演会を実現したいと考えて、実行委員会を立ち上げて準備をしているところである。8月9日（土）に市民ホールつくばねで開催予定である。

小林美希さんは、水戸第一高校出身で、今の茨城県知事大井川和彦氏の後輩にあたる。知事のパワハラや県庁職員のメンタルが病んでいる現状を取り上げ、また副知事の秘書が自殺するという痛ましい事件も取り上げ、茨城県政の根本的改革を主張されている。9月7日（日）に県知事選があり、現在の時点で今の大井川氏が立候補しており、まだ対立候補が出ていない現状である。茨城をよりよくしたいと考える市民グループは対立候補を探しつつ、なんとか保守王国の茨城を変えたいという取り組みを行っている。私も3年前に福井市からつくば市に転居し、少しずつつくばや茨城県の政治や教育についてわかってきた段階である。今の大井川県政をすぐに変えることは難しいとは考えるが、多くの良識ある市民や政党の力によって、よりよい茨城県を目指したいと考えている。

最近、小林美希著『学校がつまらない—公立小学校の崩壊』（岩波書店、2024）を読んだ。この著作では明記されていないが、茨城県の教育の実態を告発しており、この著書をベースに今回の6回の連載を書いたと考えられる。私が驚いたのは、母親が決死の覚悟で子どものランドセルにボイスレコーダーを忍ばせる、という記述で、担任の言動の問題点が明らかにしている実態がある。しかし美希さんは教師を批判するだけではなく、働き過ぎの労働環境にも言及し、同時に、「あるべき小学校を取り戻すために」（第4章）で、通信制高校「N高等学校」と「N中等部」、新しい私立校の挑戦としてドルトン東京学園、工業高校の可能性、そしてきのくに子どもの村学園、伊那市立伊那小、世田谷区立桜丘中学校長の西郷孝彦さんなどを紹介している。「おわりに」で、「筆者の報道スタンスは、構造問題に苦しむ人の存在に気づいたら、それを取材して書くということ。人の苦しみや悲しみを数字で見たいはいけないと、心に留めるようにしている。・・・人の目となり耳となり、歩いて見て聞く。現場の声に気づいた者が書く。型にはまらず“平均点”を狙わない。私らしい原稿を書くには、取材を重ねて事実を積み重ねるしかない」（202頁）と美希さんは書いている。この基本姿勢が、小林美希さんの生き方である。講演会をなんとか成功させたいと考えている。

森 透（つくば市在住）

ジャーナリスト 小林美希 講演会

# イバラキが変われば 日本が変わる

—大井川県政を取材して感じた問題点—

日時 2025年8月9日(土) 14時～16時  
開場13:30 開演14:00

場所 市民ホールつくばね  
つくば市北条5060  
※車でご来場の際は隣接の秀峰筑波義務  
教育学校の駐車場をご利用下さい。

資料代 500円



<講師紹介>  
茨城県立水戸第一高等学校卒業。2000年神戸大学法学部法律学科卒業。株式会社新報社に入る。2001年毎日新聞社「エコノミスト」編集部に配属。2007年よりフリージャーナリスト。就職氷河期世代の雇用、結婚、出産・育児と就業継続などの問題を中心に活動。  
【主要著書】『ルポ 保育崩壊』岩波新書2015 『ルポ 看護の質—患者の命は守られるのか』岩波新書2016 『ルポ 保育崩壊』岩波新書2018 『ルポ 学校がつまらない—公立小学校の崩壊』岩波書店2024年。月刊誌『地平』に大井川県政を扱う6回の連載(2025年1月～6月)。

主催 「小林美希講演会を成功させよう」実行委員会  
(連絡先 森 透 090-8265-7228 t-mori@u-fukui.ac.jp)

## 報道から見るジャーナリズム批評（その6）

MAGA(Make America Great Again)のトランプ大統領が相変わらず世界を騒がせている。タコス(TACOS, 通常の名称は単数形 TACO とか)は日本でも人気のメキシコ料理だ。これが今ウォール街などで「流行」っているが、トランプ氏は嫌いだそうだ。なにしろ TACO(Trump Always Chickens Out. トランプはいつもピビッテ逃げる)なのだから。それでメキシコに真っ先に高関税をかけたのかも・・・(?)。

日本は明確な立場を表明していないようだが、マスコミも記事を報道するだけの思う。メディアは第4の権力としてもっときちんとトランプ政策への批判的立場を明確にして論陣を張っても良いのではないか。トランプMAGAは何処へ向かうのか・・・、TACO 壺に入る・・・？

(十童 百聞)

## 〈編輯後記〉

ネタニヤフ首相がトランプ大統領をノーベル平和賞に推薦し公表、トランプ氏は満足。6年前にも安倍首相(当時)が推薦したが、これはトランプ氏が自ら公表。オーウェルの「1984年」のビッグ・ブラザーも欲しかったのかな、小説には無かったけど。

(OG.)